

# 平成31年1月17日会議概要

## 第1 日時

平成31年1月17日（木）午前9時から午後0時05分までの間

## 第2 出席委員

石川委員長、渡部委員、平林委員、長谷委員、森委員

## 第3 全体会議

[警察幹部出席者]

警察本部長、総務部長、警務部参事官、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、警備部長、京都市警察部長、近畿管区警察局京都府情報通信部長

### 1 委員報告

- **（石川委員長）** 先ほど大震災警備訓練の一環として行われた対策本部設置運用訓練を視察しました。

東日本大震災の対策本部では、非常に緊迫した状況の中で大声が飛び交っていましたが、やはり実際の現場では先進のIT機器に頼るのではなく、人間の声での情報収集や伝達がふさわしいのかなと思いました。災害の情報収集に当たっては、IT機器が使えない状況も十分想定されるため、人間が発する「声」、それを聞く「耳」、情報を判断する「脳」が本質になるのではないかと思います。例えば、先進機器であるドローンによる情報収集に頼ってしまうと、機器が作動しなくなれば情報収集の手段がなくなってしまふ可能性があります。そうした場合、どの手段で情報を収集し、その情報に基づいてどのように警察活動を展開するのかということ、しっかり押さえていただきたいと思いました。
- **（渡部委員）** よく考えられた訓練が実施されたと思います。訓練の全般にわたって非常に感心しました。
- **（平林委員）** 非常に緊迫感が漂う訓練でした。徐々に被害が拡大していく様子が、対策本部員の声かけや行動でありありとわかりました。非常に良い訓練を見せていただいたと思います。その中で最新のデジタル機器を活用する一方で、白板に情報を書き、声をかけあって情報を伝達・共有するといった従来の方法が用いられており、双方が非常にうまく機能していたと思います。緊迫した現場では、むしろ最新機器よりも、従来の方法が効果的なのかなという気がしました。非常に勉強になりました。
- **（長谷委員）** 人員の確保ということに関心を持ちました。実際には登庁ができない職員や、災害対応が長期間に及んだ場合には、交替の要員も必要となるので、その要員の確保策は整理されてるのかなと思いました。また、大型のビルや高速道路などの大規模な建造物が崩壊した場合は、甚大な被害が予想される中、京都府や京都市が管理する公共の建造物であれば、その設計図や関係資料は整然と保管されているはずなので、それらをすぐに役立てて被災者を救助するなどの方策を事前に検討しておいてはどうかと思います。
- **（森委員）** 災害対応においては、消防等との連携が必要となり、そうした訓練は別途実施されていると思いますが、警察と消防等との連携、役割分担等についてもしっかり訓練してほしいと思いました。

本日の訓練では、白板に対応状況を記載しておられましたが、災害対応状況は記録して保存しておく必要があると思うので、その対応はどうされるのかと感じました。また、今後の訓練では、シナリオ外の指示等をして、現場がどのように対応するかという訓練も取り入れてはどうかと思いました。

## 2 報告事項

### (1) 平成30年中の犯罪情勢について（暫定値）

生活安全部長から、平成30年中の刑法犯認知件数や府下重点抑止犯罪である自転車盗、性犯罪等の認知状況等について、また、刑事部長から、刑法犯検挙件数や検挙率等について報告があった。

**石川委員長**から、「非常によくやっていただいて治安状況は良くなっている。ただし、刑法犯の認知件数の減少率、検挙率ともに全国平均よりも低い。全国平均より低い理由と要因について、平成30年中はどこに問題があったのかなどの総括を報告願いたい。」との発言があった。

### (2) 平成30年中における特殊詐欺等抑止対策推進状況と分析結果について（暫定値）

刑事部長から、平成30年中の特殊詐欺等被害発生状況、検挙状況、犯行ツール対策状況、予兆電話の着信状況、被害抑止対策の推進状況等について報告があった。

### (3) 平成30年中の交通事故発生状況について

交通部長から、平成30年中の京都府内の交通事故発生状況、死亡事故の発生状況等について報告があった。

**石川委員長**から、「昨年、GIS交通事故分析システムを活用した交通事故防止対策をよくやっていただいた。今後の課題は、予測できない場所での交通事故の発生をいかに食い止めるかである。難しい課題であると思うが、それを克服して本年の抑止目標を達成していただきたい。」との発言があった。

### (4) 皇后盃第37回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に伴う交通対策実施結果について

交通部長から、平成31年1月13日、西京極陸上競技場をスタート・ゴールとする皇后盃第37回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会の開催に伴う交通対策の実施結果について報告があった。

## 3 本部長報告

本部長から、

- 大震災警備訓練については、各公安委員から講評をいただいたところであるが、私の経験から申し上げますと、対策本部における情報の記録・保管については、情報を自動的に記録するような機器が一導入されていたり、記録面での工夫は進んでいると思う。

警察と消防との連携については、対策本部はもとより現地でも合同調整所を作り、双方でエリアを分担して対応することから問題は生じないと考えます。また、京都府庁に設置される対策本部には、双方の機関から連絡要員が派遣されるので、そこでも連携や調整が可能である。

更に、要員の代替については、発災後、約12時間程度は同じ要員で対応し、その時点で必要な運用期間が見えてくるので、長期が予想されれば2交替勤務とする等勤務形態を変えて対応をするなどの対応となる。

- 刑法犯認知件数の今後の抑止目標を設定するに当たって、総量をどうするかという検

討よりも、例えば、自転車盗であれば、各エリアごとに自転車盗の被害をいくら減らせるのかなどを検証して、抑止目標を設定する方向で検討しているところである。

- 交通事故防止対策については、交通事故の発生時間帯は夜間が多く、しかも飲酒が絡んでいることが多いため、その点を考慮した時間帯に取締りを行うことが有効である。また、スピードの出し過ぎも事故の発生に影響していると思われるので、その対策も必要であると考えている。

旨の報告があった。

## 第4 個別会議等

### 1 審議事項

#### (1) 運転免許関係行政処分について

交通部聴聞官から、道路交通法の規定に基づく運転免許の行政処分に係る聴聞、意見聴取の結果について説明があり、審議の上、26件の行政処分を決定した。

#### (2) 京都府公安委員会に対する審査請求の裁決について

監察官室訟務官（審理官）から、道路交通法の規定に基づく運転免許更新処分を受けた者（2件2人）から、原処分を不服として審査請求がなされたことに伴い、審査請求の趣旨、理由、原処分の内容等について説明があり、審議の上、審査請求の棄却を裁決した。

### 2 報告事項

#### (1) 国家損害賠償請求控訴事件の発生及び応訴について

監察官室訟務官から、国家損害賠償請求控訴事件につき、平成30年12月25日、大阪高等裁判所から、京都府宛てに訴状等が送達されたが、一審判決のとおり警察の取扱いは、適法・適正であることから応訴する旨の報告があった。

#### (2) 当面の行事予定等について

《総務部》

公安委員会補佐室室長補佐から、次回の公安委員会定例会議及び出席予定行事等について報告があった。